

ちこり通信 2020

センター長からのご挨拶

地域と子どもリーガルサービスセンター長

花本 広志

緊急事態宣言は解除されたものの、新型コロナウイルスの終息が見透かせないなか、夏を迎えました。みなさまがたにおかれましては、それぞれの領域において必要とされている活動に従前にもましてご活躍のことと拝察いたします。この間、当センターも、感染拡大防止の観点から閉室とさせていただいていましたが、6月1日より開室し、活動を再開しています。みなさまがたにおかれましては、これまでどおり当センターの活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの影響から、およそ3か月に渡って学校が休校とされました。子どもたちの心身や学習面・生活面への一斉休校の影響は、今後、徐々に深刻化してくるのではないかと危惧されるところです。当センターとしても注視して対応していきたいと思っております。

他方で、活動を再開したとはいえ、専門相談は、併設の地域と子ども法律事務所所属弁護士による法律相談を除き、さしあたり7月分まで中止とさせていただき、ようやく8月分から再開を予定しております。おやこ大学やおやこ広場などの活動やイベントにつきましても、7月分までは休止とさせていただき、再開は9月以降を見込んでいます。また、例年好評の夏休み子ども法教育ワークショップにつきましても、夏休み中の開催は断念し、春休みの実施を模索しているところです。

このように、センターの活動は制約されざるを得ない状況ですが、みなさまと連携・協力しながら、「子どもの最善の利益」を理念として、可能な限りの努力をしていきたいと考えています。

今年度も、よろしくご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

目次

ページ

1 センター長からのご挨拶

2-5 **特集**

草加市子育て支援共催講座
ペアレント・トレーニング

6-7 2019年度センターの
相談支援活動の概要

開所15周年の
前祝いかな！

“世界一しあわせな動物”が
埼玉に来たよ！

8 今、この夏おもうこと

9 おやこ大学だより
発行回数100回を迎えて

10 2019年度 開催
草加市・獨協大学地域と
子どもリーガルサービスセンター
共催講座

11 2019年度 開催
夏休み子ども法教育
ワークショップ

12 第19回草加市
子育てフェスタ

2020年度 開催予定
講座・イベント

センタースタッフだより

特集 パARENT・トレーニング

草加市子育て支援共催講座

ペアレント・トレーニング

(相談員：内山 明子)



1. はじめに

子育て相談に携わっていると「穏やかに子どもに接したいが難しい」「気持ちが焦ってしまい、つい叱って後で後悔する」「子どもの困った行動に対してどう接すればよいのか悩む」そんな親の気持ちに触れることがある。

このような親の思いに対して、実践的な対応のヒントになればと考え、埼玉県発達障害総合支援センターで、ペアレント・トレーニング(まめの木式)指導者実践研修を相談員2名で受講し、草加市と共催でペアレント・トレーニング講座を開催した。

2018年にペアレント・プログラムを草加市と共催で開催しているが、今回も良好な親子関係作りに効果があったため報告する。

2. ペアレント・トレーニング開催の様子

会期は2019年9月から12月までで、1回2時間全6回の講義と宿題で学びを積み上げる構成にした。

受講生は幼稚園から小学生の子どもを持つ7名の母親で、参加状況は全回参加5名、1回欠席2名であった。欠席者には後日講師から個別に電話連絡し、1時間ほど内容の説明を行い次回参加時に理解度を確認した。

全回終了時にはペアレント・トレーニング(以後、ペアトレ)受講後の変化や感想を得るためにアンケートを行った。

1か月後にはフォローアップ会を開催しペアトレの継続的な実施と家庭で実践しての疑

問について話し合った。

講座内容に触れる前に、ペアトレについて少し説明したい。ペアレント・トレーニングを直訳すると親の訓練という印象を持つかもしれないが、プログラムの趣旨は「親が子どもにとって理解しやすい言葉がけのコツを知り、子どもの行動に対する具体的な一貫した接し方で、温かな親子関係が築けるスキル」である。

ペアトレの起源は1970年代にアメリカで開発されたものである。

日本では2005年に発達障害者支援法により発達障害に対する援助等が定まり、2007年に特別支援教育が開始し厚生労働省による発達障害者支援施策の位置づけとなっている。

写真1 講座の様子



3. プログラム内容

(1) 学びの土台作り

ペアトレは講義に加えてロールプレイで練習するので体感的に学べる。このため、受講生が自由に意見を交わせる雰囲気が大切と考え、初回に緊張感をほぐすウォーミングアップ「ことばのキャッチボール」を行なった。これは当センターのオリジナルで、柔らかいボールを受講生同士でキャッチボールする。投げたボールの強弱によって相手にどのように伝わるのかを体感してもらった。相手が受け止めやすく優しくボールを投げると、受け止める相手はキャッチが容易で感触も柔らかく感じる。反して強くボールを投げると、相手は手に衝撃を感じる。コミュニケーションとはまさに相手とのキャ

ッチボールであることを和やかに学んだ。

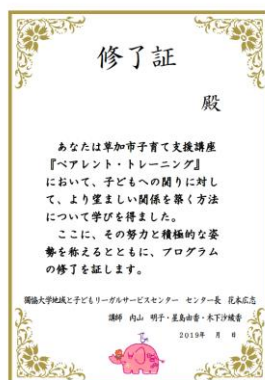
更に、自分の子育てをじっくり話すには安心できる雰囲気が不可欠なため、講師やスタッフからの温かい肯定的な言葉がけや関わりも工夫した。期間中はハロウィンやクリスマスがあったため会場に飾りつけをしたり、手作りおもちゃをお土産で準備して、楽しい親子時間が作られるのを願った。

そして、6回目には修了証を一人ずつ手渡し学んだことを喜び合った。

写真2 手作りおもちゃと会場の飾り付け



写真3 受講生へ修了証を準備



(2) プログラム内容の特徴

図1にペアトレのプログラムを示した。

進め方は、前回の学びを確認した後、本日のテーマを積み上げる構成にした。

毎回、受講生に宿題の確認と子どもの様子を話してもらい、テーマごとのペアトレでの関わり方を講義しロールプレイで練習した。

ペアトレの基本内容には「子どもの様子を好ましい行動・好ましくない行動・許しがたい行動の3つに分類する」「対応は3つに分類した行動ごとに決まった一貫性のある関わりを持つ」「子どものできる姿を100%（完璧な出来具合）ではなく、25%の出来具合でほめる」「ほめ方には多くのタイミングやバリエーションがある」「どうしても直してほしい困った行動には、スルーとほめるの組み合わせで関わる」「子ども自身が行動できるような指示の出し方」などがある。これを日常でどの様に取り入れるのかを講義し宿題で実践してもらった。

(3) ロールプレイで気づきを引き出す

学びを家庭で出来るようになるには、受講生が自分の気持ちに気づけるように引き出すことが大切である。このため、プログラムに入る前に宿題をしてみてもの感想をじっくり聴いた。

その後、テーマに入りロールプレイで練習するのだが、受講生によっては人前で行うことに恥ずかしさもあったようだ。半面「帰宅してからすぐ出来た」「子ども役の時に子どもの気持ちが分かった」、子どもをほめるロールプレイでは「ほめることを意外と見過ごしていた」「子どもをほめるのに慣れていなかった」「親自身が子育てできていない点ばかりに目が向いて自分を追い詰めていた」など感想を述べている。

ロールプレイは自分の子育てに対して多くの気づきがあったと言える。

図1 講座のプログラム内容

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | オリエンテーション・行動を3つにわけ |
| 第2回 | 好ましい行動を増やす・肯定的な注目（ほめる）を与えよう |
| 第3回 | 好ましくない行動を減らすために・スルーとほめるの組み合わせ |
| 第4回 | 子どもの協力を引き出す方法・効果的な指示の出し方① |
| 第5回 | 子どもの協力を引き出す方法・効果的な指示の出し方②
よりよい行動チャートの作り方・使い方① |
| 第6回 | よりよい行動チャートの作り方・使い方②・講座のまとめ
フォローアップ会を一か月後に開催 |

写真4 ロールプレイのデモンストレーション



4. 全回終了時のアンケート結果

(1) 親から子どもへの関わり方の変化

- ①穏やかに接する時間が長くなり、せっぱつまった気持ちが少し和らいだ。
- ②子どもを言葉で動かそうとしていたが今は子どもが自分で考えられるように時間を与えられるようになった。
- ③「何かほめる事はないかな」と見つけようとするようになった。
- ④子どもの出来ない点が気になっていたが今は出来る点に気づけるようになった。

(2) 子どもが変化したこと

- ①子どもに笑顔が増えた。
- ②親が子どもに、具体的に行動で伝えることが出来るようになったので、子ども自身が動けることが増えた。
- ③子どもは親からほめられる回数が増えたため肯定感が高まった。
- ④子どもは、ほめられるのを待っていたりほめられてうれしそうにしていた。
- ⑤親の話を聞くようになった。

(3) 家族が変化したこと

- ①父親に学んだこと「一貫した接し方」「スルー」「ほめる」などを伝え、一緒に協力して取り入れることができた。
- ②子どもに注意するときの言葉を父親と一緒に考えるようになった。

③家族に対しても「25%でほめる」ことができた。

(4) ロールプレイで学んでよかったこと

- ①毎回ロールプレイを行うので帰宅してすぐ実践できた。
- ②講座内容をロールプレイで体験するので説明されたことを自宅で振り返りやすい。
- ③ロールプレイで他の人の雰囲気や言葉使いが見られるので、自分のやり方について気づきがあった。
- ④子ども役をする場面で、伝え方次第で子どもがどのように感じるのか体験できた。

(5) 印象的な講座内容

表1は講座内容のうち印象的であったものを示した。受講内容別の合計人数では「25%でほめる」6名、「肯定的な注目」4名、「行動のABC(先行状況 Antecedent 問題行動 Behavior 結果 Consequence)」と「CCQ(Calm Close Quiet)で指示を出す」が3名ずつであった。

個別に見た回答個数は1～3個が5人、4個以上が2名、平均は3.1個であった。

表1 印象的な講座内容は何ですか

受講内容	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	合計(人数)
肯定的な注目	1		1	1			1	4
否定的な注目								0
ことばのキャッチボール								0
行動のABC		1	1			1		3
親子の悪循環					1			1
行動を3つに分ける			1					1
ほめかたの種類								0
25%でほめる	1	1	1	1		1	1	6
ロールプレイ				1				1
スルーの方法と種類			1	1				2
指示の種類		1						1
CCQで指示を出す	1		1				1	3
よりよい行動チャートBBC								0
個別に見た回答個数	3	3	6	4	1	2	3	22

(6) 役立っている、今後も使えそうだと思う内容

表2は、講座内容のうち役立っている、今後

も使えそうだと思うものを示した。受講内容別の合計人数では「25%でほめる」は7名全員、「CCQで指示を出す」4名、「肯定的な注目」「行動のABC」「行動を3つに分ける」はそれぞれ3名が回答した。

「肯定的な注目」「行動のABC」「25%でほめる」「CCQで指示を出す」は表1で示した印象的だった講座内容と重なり3名以上が回答していた。

個別に見た回答個数は1～3個が3名、4個以上が4名で、表1に示した4個以上と回答した2名よりも更に2名増えていた。平均は3.4個であった。

表2 講座の中で役立っている、今後も使えそうだと思う内容は何か

受講内容	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん	Gさん	合計(人数)
肯定的な注目	1			1			1	3
否定的な注目								0
ことばのキャッチボール								0
行動のABC	1		1			1		3
親子の悪循環								0
行動を3つに分ける		1				1	1	3
ほめかたの種類								0
25%でほめる	1	1	1	1	1	1	1	7
スルーの方法と種類			1	1				2
指示の種類								0
CCQで指示を出す			1	1		1	1	4
よりよい行動チャートBBC			1	1				2
個別に見た回答個数	3	2	5	5	1	4	4	24

5. 講座開催の効果と振り返り

全講座とフォローアップ会を通して、今後も子どもの成長に合わせたペアトレの関わりで、更により親子関係が作られていくと感じた。

そして、講座内容で繰り返し伝えたのが「25%でほめる」である。この考え方は受講生の反応も大きく、実践的に活用されている。親は子どもと向き合ううちに「100%の出来具合」をいつの間にか求めてしまうことがある。すると、出来るのか出来ないのかの二者選択になり、親子が疲弊してしまう可能性がある。大切なのは子どもが今、超えられる目標を「25%の出来具合」とし、階段を上るように出来たらほめて子どもの肯定感を高める関わりを繰り返すこ

とである。これは、親にとっても残り75%は今後出来る可能性となり、気持ちに余裕が生まれる効果がある。

また、受講による効果を得られた理由に、ペアトレの手法が具体的で取り入れやすい点もあるが、受講生の熱心な学ぶ姿勢が大きい。それは、活発な意見や質問、出席率の高さに表れていた。反面、表1と表2における回答が1～3個にとどめた受講生への対応が課題となった。今後の可能性として、プログラムの中間にお茶会のような雰囲気や講座内容の疑問点や日頃の話聞く機会を設け、より印象的に個性の高い関わりや、受講終了時のアンケートで対応していくことも考えていきたい。

6. おわりに

子育てには、その家の考え方や教育方法があり悩みは多岐に渡る。特に育てにくさを感じたり、発達障害が疑われる場合は対応に困り自分の子育てに自信を失ったりする場合がある。

当センターとしては親の悩みを受け止め、親子関係に効果的な支援を続けたいと考える。

ペアトレはよい人間関係を築くスキルとして、保育、教育に生かす支援者向けのプログラムが存在している。今後の活動として、親子に加えて、子どもに関わる人向けの講座も新たに提案したいと考える。

最後になったが、今回、草加市との共催講座で開催する機会を得たことに深く感謝したい。

<参考文献>

- 1) 上林靖子監修、北道子、河内美恵、藤井和子編集：「こうすればうまくいく 発達障害のペアレント・トレーニング実践マニュアル」中央法規出版
- 2) 上林康子、庄司敦子、森田美加：「子どもの困った行動はお母さん次第で変えられる！一子育てが楽しくラクになるペアレント・トレーニング」PHP 研究所



2019 年度センターの
相談支援活動の概要
(センター長：花本 広志)



2019 年度の新規相談件数は、115 件で、一般相談が 102 件、コンサルテーション（子どもに関わる NPO、学校、行政機関等から、子どもや親、関係先への対応や連絡先について寄せられる相談）が 13 件でした。2018 年度以前から継続している件数は 44 件あり、これに新規受付件数を加えると、相談ケースの総数は 159 件でした。新規受付件数のうち、54 件は、センター相談員による聞き取り・助言で、36 件は専門相談で対応し、13 件は他の専門機関等への紹介・連携等を行いました。

新規相談件数のうち、102 件は埼玉県内からのものであり、埼玉県外は 3 件、不明は 10 件でした。

新規相談の内容は、2019 年度も、発達障害、不登校・引きこもり、子どもの心理面での不安、家族関係・親子関係の問題、子育ての不安、離婚・DV の問題、学校等の対応の問題、など多岐にわたっています（表 1）。

発達障害、不登校・ひきこもり、子どもの心理面での不安、離婚・DV の問題は例年多く寄せられる相談内容です。また、学校等の対応への苦情等についても、件数が特に多いわけではありませんが、毎年相談が入る状況にあります。

2019 年度の相談対応件数は、のべ 800 件でした。例年どおり、電話での相談対応が大半を占めています。初回の相談は電話で受けつけており、その後は、電話相談、来所による面談、家庭訪問、診察への同行や学校等との話合いの場への同席などを行っています（表 2）。

◆表 1：新規相談内容

発達障害	17
不登校・引きこもり	17
子どもの心理面での不安	15
法的支援	12
家族関係・親子関係の問題	9
子育て不安	8
離婚・DV の問題	8
学校等の対応の問題	8
犯罪被害	2
虐待・養育困難	2
子ども同士の間人間関係	2
養育・親権の問題	1
その他	14
計	115

◆表 2：相談方法

電話	652
来所	114
メール	15
訪問	5
その他	14
計	800

◆対応内容

相談	542
連携・調整	196
報告	28
経過観察	15
観察	7
紹介	2
付添い	1
その他	9
計	800

ある程度長期にわたり継続支援しているケースについては、メールによる相談を受ける場合があります。

Y	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	2042	2043	2044	2045	2046	2047	2048	2049	2050	2051	2052	2053	2054	2055	2056	2057	2058	2059	2060	2061	2062	2063	2064	2065	2066	2067	2068	2069	2070	2071	2072	2073	2074	2075	2076	2077	2078	2079	2080	2081	2082	2083	2084	2085	2086	2087	2088	2089	2090	2091	2092	2093	2094	2095	2096	2097	2098	2099	2100	2101	2102	2103	2104	2105	2106	2107	2108	2109	2110	2111	2112	2113	2114	2115	2116	2117	2118	2119	2120	2121	2122	2123	2124	2125	2126	2127	2128	2129	2130	2131	2132	2133	2134	2135	2136	2137	2138	2139	2140	2141	2142	2143	2144	2145	2146	2147	2148	2149	2150	2151	2152	2153	2154	2155	2156	2157	2158	2159	2160	2161	2162	2163	2164	2165	2166	2167	2168	2169	2170	2171	2172	2173	2174	2175	2176	2177	2178	2179	2180	2181	2182	2183	2184	2185	2186	2187	2188	2189	2190	2191	2192	2193	2194	2195	2196	2197	2198	2199	2200	2201	2202	2203	2204	2205	2206	2207	2208	2209	2210	2211	2212	2213	2214	2215	2216	2217	2218	2219	2220	2221	2222	2223	2224	2225	2226	2227	2228	2229	2230	2231	2232	2233	2234	2235	2236	2237	2238	2239	2240	2241	2242	2243	2244	2245	2246	2247	2248	2249	2250	2251	2252	2253	2254	2255	2256	2257	2258	2259	2260	2261	2262	2263	2264	2265	2266	2267	2268	2269	2270	2271	2272	2273	2274	2275	2276	2277	2278	2279	2280	2281	2282	2283	2284	2285	2286	2287	2288	2289	2290	2291	2292	2293	2294	2295	2296	2297	2298	2299	2300	2301	2302	2303	2304	2305	2306	2307	2308	2309	2310	2311	2312	2313	2314	2315	2316	2317	2318	2319	2320	2321	2322	2323	2324	2325	2326	2327	2328	2329	2330	2331	2332	2333	2334	2335	2336	2337	2338	2339	2340	2341	2342	2343	2344	2345	2346	2347	2348	2349	2350	2351	2352	2353	2354	2355	2356	2357	2358	2359	2360	2361	2362	2363	2364	2365	2366	2367	2368	2369	2370	2371	2372	2373	2374	2375	2376	2377	2378	2379	2380	2381	2382	2383	2384	2385	2386	2387	2388	2389	2390	2391	2392	2393	2394	2395	2396	2397	2398	2399	2400	2401	2402	2403	2404	2405	2406	2407	2408	2409	2410	2411	2412	2413	2414	2415	2416	2417	2418
---	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

なんと…
沈黙の時を経て、
再び咲きました♡

Y





今、この夏おもうこと

(相談員：星島 由香)



「ものみな萌えいづる春」

この美しい表現は、レイチェル・カーソン著『沈黙の春』(青葉築一訳、新潮文庫)を読み終えた後、筑波常治氏による解説の中でを見つけました。この言葉を知ったのちに『万葉集』の中に「石走^{いわばし}る垂^{たる}水の上のさわらび^もの萌^いえ出づる春になり^にけるかも」という歌を目にし、石を打つ水の流れ、そして競うように芽を吹く^{わらび}蕨と水辺の美しい様子を感じさせてくれて、萌え萌えウキウキ気分を誘う歌だなあと思ったものです。(本の内容は、化学薬品によって自然が脅かされるという、実際に世界各地であった重めのお話なのですが(-_-;))

今年、2020年の春は、いつもの春ではありませんでした。不安や戸惑いが渦巻いて、心がザワザワとする日も少なくありませんでした。けれども、ふと周囲を見渡してみれば、つくしんぼも顔を出していたし、桜も満開になっていました。おすそ分けでタケノコやフキもいただきました。植物の世界は変わらず“ものみな萌えいづっていた”のですね。

レイチェル・カーソンには『センス・オブ・ワンダー』という著書もあります(上遠恵子訳、新潮社)。この言葉の響きや意味もすごく素敵だなあと感じています。私は「センス・オブ・ワンダー」を「不思議をとらえる感性」と理解しましたが、これは子どもの得意技!彼らのフィルターを通してとらえた世界観は、どのように心を動かしているのだろう…そう考えただけでワクワクが止まりません。

すっかり大人になってしまった私たちにも、子どもの頃の感覚を取り戻す瞬間があります。例えば、ゲリラ豪雨に遭遇した時に「小さい時に感じ

たあの夕立の匂いと一緒に!」と記憶の中の風景を思い出したり、蝶や蟬の羽化を見守った時、息苦しくなったりしたことなどが懐かしく蘇り、心に刺激を受けることがあります。

私はこういった記憶や感情が自身の中から湧き上がってくることを嬉しく思っています。相談対象の子どもたちと向き合う時、この感覚がとても重要であり大切にしたいことだからです。興味津々、好奇心旺盛、五感パワフル全開で飛び込んでくる子どもたちを受け止めるためには、こちらもそれなりの力を蓄えておかななくてはなりません。そのため、子どもが興味関心を示すものに、日々アンテナを張っています。調査のつもりで足を踏み入れ、それを忘れるほどはまってしまったことも数知れず…(漫画『キングダム』(原泰久作画、集英社)に夢中になり、登場キャラクターの^{おうき}王騎將軍ロスになりました)。

大人になっても不思議なことやわからないこと、知りたいことってまだまだたくさんあつてきりがありません。子どもならなおのこと、目の前で起きていることすべてが学びです。

子どもたちは、今社会で起きているこの現象をその子なりの力でとらえていると思います。いつもと違う大人の様子から、また環境の変化から、自分をうまく表現できずに敏感になっている子もいるかもしれません。そんな今だからこそ、私たち大人は何ができるのか、何をすべきなのか、突き付けられている気がしてなりません。自然は美しく癒されますが、その力は時に脅威でしかなく小さくて無力な自分を思い知らされます。

バージニア・リー・バートンの絵本『せいめいのれきし』(いしいももこ訳、岩波書店)やサビーナ・ラデヴァ作絵『ダーウィンの「種の起源」―はじめての進化論』(福岡伸一訳、岩波書店)を開いて、どっぷりと不思議な世界に浸りつつ、「宇宙からみたら超ちっぽけな私ができることは何だろうか…」についてしっかりと考えたいと思います。



おやこ大学だより
発行回数 100 回を迎えて
(事務担当：遠山 直子)



2011 年 4 月、当センターが獨協大学の構内より、現在の場所に移転以来、毎月 1 回発行してまいりました「おやこ大学だより」が、2019 年 9 月に発行回数 100 回目を迎えました。

おやこ大学だよりは、当センターで主催しております、「おやこ大学」に付随する形で生まれたものですが、育児の情報だけでなく、おやこ大学に参加してくれたママ、修了後も自主活動などでセンターを訪れてくれるママたちが一緒になって記事を盛り上げてくださり、「繋がり」のツールとして発展していきました。

※おやこ大学は、新米ママと赤ちゃんを対象に、初めての子育てを学んでいく講座で、親同士の関係づくりをサポートする目的として活動しております。

記念号を作成するにあたり、歴代のおやこ大学だよりによって一つ一つ目を通していくと、今読み返してみても、面白いと思える記事がたくさんあり、創刊号をはじめとし、幾つかのバックナンバーを 2019 年 9 月号、10 月号にてご紹介いたしました。

おやこ大学だよりは、2015 年 6 月号まで、郵送で配布しておりましたが、2015 年 7 月号より、ホームページに掲載を始めました。

ウェブという媒体を活用するにあたり、記事に参加して下さったママたちの個人情報や写真掲載等に注意する点も多く、今までのような参加型のものとは、少し仕様が違ったものの、「季節の行事のお知らせ」や「注意したい子どもの病気の情報」、「親子で楽しめる遊びや工作」、「生き物を育てることを通しての学び」などを中心にお送りしています。

先ほど、「繋がり」のツールとして発展してきたと申しましたが、おやこ大学の講座がない月にも、毎月必ず掲載してきた理由があります。

おやこ大学で学んだことを少しでも思い出してもらいたい。困ったとき、悩んだときはもちろん、気軽に相談できて、「一緒に、子どもたちの成長を見守っていける場所でありたい」という願いも込めて、おやこ大学だよりを発行し続けております。

子育ては、楽しいことばかりではありません。初めてのママも、先輩ママも、その時折々に悩むことは違うかもしれませんが、「一人の人間を育てる」ということに、みんな懸命に頑張っている。そんな一人一人の想いのリレーをセンターが繋いで行けたらと思っております。

今後も、おやこ大学だよりを作成するにあたって、当初からの思いを大切に引き継いでいけたらと思っております。

● 2019 年度第 1 期 おやこ大学開催 ●

第 1 回 2019 年 6 月 4 日(火) タッチケア

講師：当センタースタッフ(タッチケア指導者)

第 2 回 2019 年 6 月 18 日(火) 離乳食

講師：林悦子先生(栄養士)

第 3 回 2019 年 7 月 2 日(火) スクラップブック

講師：小松崎恵先生、寺澤雅子先生

第 4 回 2019 年 7 月 16 日(火) 絵本

講師：柳田悦子先生(保育士)

協力：茨木画子さん

♡ SPECIAL THANKS ♡

株式会社和光堂

(離乳食のサンプルをいただきました)

株式会社ナチュラルサイエンス

(スキンケア用品のサンプルをいただきました)



わたしがシアワセを 獲得するために



◇布柴靖枝先生◇

文教大学人間科学部臨床心理学科教授
京都大学大学院博士課程後期修了 博士(教育学)
第71回、第72回国連総会第3委員会政府代表顧問、
臨床心理士、家族心理士、社会福祉士、
公認心理師、上級教育カウンセラー

— 2019 年 6 月 29 日 (土) — (事務担当：秋元 美智子)

布柴靖枝先生による、2017 年度の「シアワセを獲得できる子どもを育てるために」、2018 年度の「シアワセを獲得できる家族になるために」の講座が好評につき、2019 年度は「わたしがシアワセを獲得するために」が開催されました。自分が幸せを感じるためには、他者との関係が重要になります。国際・IT 社会の急激な変化の中で、多様な価値観を認め合い、よりよい人間関係を築くためのアサーティブなコミュニケーションとはなにか。自分を知り、他者も大切にする事を学べる講座でした。

子どものアレルギー 疾患とその対応



◇吉原重美先生◇

獨協医科大学医学部小児科学主任教授
日本小児科学会専門医
日本アレルギー学会指導医
日本体育協会公認スポーツドクター
臨床修練指導医

— 2020 年 1 月 11 日 (土) — (事務担当：秋元 美智子)

獨協医科大学の吉原重美先生をお招きし「子どものアレルギー疾患とその対応」を開催、アレルギーに対する基礎知識、生活習慣、学校への啓蒙の必要性についてお話して頂きました。また、アナフィラキシー症状にある患児に対する適切なエピペンの使用法を、実践形式で教えて頂きました。

講習終了後には、辻安全食品株式会社のご協力のもと、辻幸一郎代表取締役社長より、アレルギー代替食品のご紹介と、クッキー等の商品もご用意頂き、試食をしながら、吉原先生への質問の時間も設ける事ができました。



協力：辻安全食品株式会社

孫育て講座 「今と昔」



◇金子弘恵先生◇
(助産師)



◇山口千砂都先生◇
(管理栄養士)

— 2020 年 2 月 15 日 (土) — (事務担当：秋元 美智子)

「今どきの子育て」に戸惑う祖父母の方に向けて、専門家をお招きし、パパとママへの子育て支援を学ぶ講座を開催しました。

助産師の金子先生には「スキンケア、抱き癖」など生活習慣について、管理栄養士の山口先生には「断乳卒乳、離乳食のあり方」など栄養について「今と昔」の違いを教えてくださいました。

お二人共通のアドバイスとしては、子育ての主役はパパとママであることが挙がりました。参加者の方々も頷かれている様子でした。

目指せ！最強の少年弁護士

～弁護士と学ぶ交渉の達人への道～

（センター長：花本 広志）

2019 年度の夏休み子ども法教育ワークショップは、例年どおり、埼玉弁護士会・人権のための法教育委員会のご協力のもと、小学校 5・6 年生を対象に、「目指せ！最強の少年弁護士～弁護士と学ぶ交渉の達人への道～」と題して、昨年度に引き続き、交渉をテーマとするワークショップを開催しました。

「交渉」というと、「かけひき」や「だましあい」といったイメージをもつかもしれません。しかし、必ずしもそうではありません。よい交渉とは、当事者双方にとって、また社会にとっても、よい結果をもたらすものです。話し合いによる決定を基本とする民主主義社会においては、よい交渉の方法を身につけることが求められています。

そこで、このワークショップでは、2 日間かけて交渉について学びました。

2019 年 8 月 20 日（火）のワークショップ 1 日目は、練習用の簡単な模擬交渉を行うなどしながら、よい交渉を行うための考え方と「わざ」を学びました。

具体的には、お小遣い帳をきちんとつけるという約束にもかかわらず、適当につけていたことがバレてお小遣いなしにされてしまったという設定で、お母さんとお小遣い復活のための交渉をしたり、有名なオレンジ紛争の模擬交渉シナリオを使って、立場ではなく利害に注目することで、交渉当事者双方にとって利益となる解決策を考えることを学びました。

2019 年 8 月 21 日（水）には、1 日目に学んだ交渉の基本的な考え方と「わざ」を使って、子どもたちに身近な問題を素材にした本格的な模擬交渉を行いました。事案は、子どもたちに人気（という設定の）「ホゲモンカード」（〇ケオンではありません）のカードの交換をめぐる紛争で、そうと気づかずに友人との交換に応じてしまったレアカードの返還を求める事案でした。弁護士さんたちが自作した渾身のシナリオで、子どもたちもとても盛り上がっていました。

模擬交渉事案としては、子どもたちには少々難しかったようですが、弁護士さんたちの熱心な指導もあって、子どもたちは交渉の基本的な考え方と「わざ」をしっかりと学んでくれたように思います。



高校生模擬裁判員裁判

— 2019 年 8 月 24 日（土）・25 日（日） —

（相談員：木下 沙綾香）

子どもへの法教育の一環として、上記とともに「模擬裁判員裁判」を実施しています。今年度も獨協埼玉高校の高校生が、弁護士、検察官、裁判員を演じながら熱い議論を闘わせました。指導役は、本学大学院を修了した現役弁護士です。獨協大学での学びを地域に暮らす子どもたちに還元できる場としても重要なイベントであり、毎年盛況のうちに終了しています。





◆ 第19回 草加市子育てフェスタ ◆

2019年9月14日(土)に開催された草加市子育てフェスタに「お弁当バイキング」で参加しました。

毎年、食育をテーマに工作を発信していますが、今回は幼児さんにも楽しんでもらえるよう、トングを使ってパックに詰めるミッション。パン屋さんでのトングは禁止していると思います。「それならここで思いっきり使ってもらおう!」と企画しました。

びっくりするほど大人気!! 工作は私たちスタッフが担当。その量 500 食分です! おかげさまで完売しました。



ハートライアングル共催運営
おやこ広場「とらいあんぐる」
お問い合わせは当センターまで

[https://www.soka-bokkurun.com/
supporter/party/detail/71](https://www.soka-bokkurun.com/supporter/party/detail/71)



2020年度 開催予定 講座・イベント

- ◇ 草加市共催子育て支援講座 ◇
11月と1月に予定しております。
詳細はホームページや草加市「広報そうか」等に掲載予定です。
- ◇ ハートライアングル共催 ◇
おやこ広場「とらいあんぐる」は
9月開催予定です。
- ◇ 小学生向け法教育ワークショップ ◇
2021年春に開催予定です。

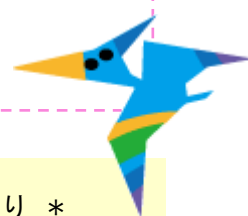


絵: さやかちゃん

※予定が変更になる場合があります。

2020年度 開催日時未定の講座・イベント

- ◇ おやこ大学 ◇
- ◇ ペアレント・トレーニング ◇



* センタースタッフだより *

- ・オンライン授業ですっかり出不精になってしまいました。運動不足で体重が…(ひ)
- ・たわわに実ったビワをコンポートに。
瑞々しく鮮やか、そしてうまし。(☆彡)
- ・ステイホーム中に、空の些細な変化に気づけるようになりました。青空は嬉しい!(沙)
- ・スーパーで根付のパクチーを買い、食後植えてみました。葉が少しずつ増えていくのが最近のお楽しみです。(内)
- ・巣立ってしまえば、かけがえのない時間…
可愛い盛り/自粛の分だけちょっぴり延長♪(遠)
- ・センターのカエルは益々元気です!
色も変わってビックリ!(秋)

【発行】 獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター

【編集】 遠山 直子

〒340-0041 埼玉県草加市松原 1-1-10

TEL : 048-946-1781 FAX : 048-946-1782

E-mail : kodomolc@dokkyo.ac.jp

<https://www.dokkyo.ac.jp/kodomolegal/>

相談専用電話 048-946-1771 (月曜~金曜 10時~16時)